

とよ坊かぼちゃんの地域特産づくりの支援

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

『とよさと町特産物振興協議会』は、平成 17 年からミニかぼちゃ「とよ坊かぼちゃん」の特産づくりに取り組まれています。しかし、地域の平均収量は 413 kg/10a と低く、栽培技術の改善が喫緊の課題となっていました。また、平成 27 年度からは生産された「とよ坊かぼちゃん」を協議会が全量買い取り、青果で販売できなかったものはペーストへの一次加工を行い、さらにプリン等に再加工して販売していましたが、ペーストの在庫を抱え、加工品の販売量の拡大が課題となっていました。

【普及活動の内容】

基本栽培技術の習得のため、研修会を開催し、低収要因を分析するとともに、改善策として「適期定植」「定植時の害虫防除」「生育後期の追肥とうどんこ病防除」の徹底を促しました。また、ポイントとなる技術が実践されるよう、8 回の情報誌発行や 10 回の巡回を実施指導し、個別の理解の徹底を図りました。

プリンについては、柔らかくて美味しく栄養価が高いという特徴から需要が見込める高齢者介護施設を新たな販路とした商品開発を行うため、施設にコンタクトをとり、当プリンに関する聞き取り調査や開発支援などを行いました。



写真 栽培研修会の様子

また、新たな商品として、贈答用の「上部がカラメルの上層プリン」の開発に向け、カラメルの原材料、糖度、ゲルの強度やパッケージ方法について専門家や業者等のアドバイスを受けながら、試作を行いました。

【普及活動の成果】

収量は、10 a 以上栽培者 4 経営体の平均収量が平成 27 年度 453kg/10a から今年度は 641kg/10 a と大きく増加し、経営的に成り立つ 600 kg/10 a に到達することができました。平成 29 年度は反収 600 kg/10 a を確保できる栽培者をさらに増やすよう活動を進めます。また、プリンは高齢者介護施設向と贈答用の上部カラメルの 2 層プリンの新商品化が実現し、平成 29 年度は約 2 万個販売することで、加工したペーストの在庫がなくなることを目標に支援を行います。

◎対象者の意見

支援のおかげで、収量が確保でき、労賃が支払えた。(栽培者：集落営農役員)

ペーストやプリンとして販路拡大ができ生産者から全量買い取りで所得確保が可能となり、さらに拡大のため支援をしてほしい(特産物協議会事務局)